

高齢者切除不能・再発胃癌に対するS-1単剤療法とS-1/L-OHP併用 (SOX) 療法のランダム化第II相試験 (WJOG8315G 試験)

目的

胃癌のなかでも、再発や転移をきたした患者さんには、主に抗がん剤治療が行われます。胃癌への初回の治療としては、フッ化ピリミジン系の薬剤（商品名ゼローダ、ティーエスワンなど）とプラチナ系の薬剤（商品名ランダ、エルプラットなど）を組み合わせる治療が最も有効と考えられています。

一方で、最近では高齢のがん患者への抗がん剤治療をどうすべきか、は大きな課題です。そこで、一般に高齢者では強度を落とした治療が行われていますが、一律に強度を下げた治療をすべきなのか、それとも特定の高齢者には若年者と同じもしくは一定の強度を有した治療をすべきなのかという課題を明らかにするための臨床試験を計画しました。

具体的には、70歳以上の胃癌患者を対象に、フッ化ピリミジン系薬剤であるティーエスワン（略称S-1）とプラチナ系薬剤であるエルプラット（略称L-OHP）を組み合わせる治療（SOX療法）と、ティーエスワン単剤での治療をくじ引きで選択し、選ばれた治療を受けていただきます。

どちらの治療がすぐれているか、検討することによって、高齢患者に最適な治療がどのようなものが明らかにされると期待されます。

本臨床試験は西日本がん研究機構（WJOG）が主体となって実施しており、全国の多数施設が参加して行われています。